

## クマガイソウ

野瀬 隆平

草花に詳しい人に、珍しい花が見られると教えられ見に行った。

それは農家の軒先に咲いていた。毎朝の散歩コースなのに気付かず  
にいたのは、生垣に隠れていて、周りの草をかき分けないと目に入ら  
ないからである。

「クマガイソウ」という聞きなれない名前なので、いわれを尋ねてみ  
ると、これはアツモリソウに似た花だからこの名がつけられたという。  
確かに、図鑑で見るアツモリソウに似ている。葉っぱの形が少し違う  
だけで、どちらの花も形が屏風絵にも描かれている武者の「母衣」の  
ようだ。二人の武将の名前に因んで付けられたことに納得する。

「平家物語」に出てくる敦盛の最後の場面を思い起こす。

一の谷の合戦で敗れた平家。平清盛の甥である敦盛が、馬で海へ逃れ  
ようとしていた時に、呼び止めたのが熊谷直実である。「敵に後ろを  
見せて逃げるとは卑怯である」と云われ、敦盛は戻る。

直実が捕えて見ると眉目秀麗な若武者である。自分の息子と同じ年  
頃だ。首を刎ねるには忍びないが、かといって味方の軍勢が近づいて  
くる中、見逃すわけにはゆかない。やむなく刃に掛けて、身につけて  
いたものを検めると、笛が出てきた。さては明けがた聞えてきた笛の

音の主はこの武者だったのか。戦いの中でも優雅な心を失わないこと  
に感慨を覚える。

能の「敦盛」では、後に出家した直実は蓮生と称して、敦盛の霊を  
弔いながら生きて行く中で、敦盛の亡霊に須磨で会う場面が演じられ  
る。最後は敦盛が恨みを捨て、二人が真の友となるという筋書きであ  
る。

あの戦から、八百年以上も経っているのに、一人の武将のことは、  
琵琶法師によって語り継がれ能の演目となり、果ては花の名となって、  
いまだに忘れられない存在として残っている。

敦盛の笛聞こえけり朧月 子規

花を見た旬日の後、どうなっているかと見にゆくと、花は枯れて根  
元に落ちていた。

哀れな姿に変わってはいたが、花が摘まれずに済んだことは幸いで  
ある。来年もあの姿を見せてくれることであろう。

